

東日本大震災支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

カリタスジャパン 福島県南相馬市原町ベース

4月15日から2泊3日で福島県原町のカリタスジャパン原町ベースを訪問しました。浪江町出身の稲川シスターと泉田幹子さんに同行して、VIDESから田中和美さんと私の2名が、被災者とボランティア団体とをつなぐ架け橋として、今何が必要で、ボランティアとして、VIDESとしては何ができるか、調べに行きました。

原町ベースの環境を整え、ボランティアの方も、被災者の方も集えるようにし、皆が集まれるサロンができ、それぞれの活動を繋いで、大きな輪を作っていけたらいいと話し合いました。

今回の活動として、放射能が低い二本松の野菜を

東京カリタスで買い取り、仮設住宅に一軒一軒配ってきました。仮設住宅のプライバシーが保てない生活で、静かに暮らしているので、早く安心して住める場所を何とかしてほしいと思いました。



浪江町も入れるようにはなりませんが、津波に流されて何もなくて、船や車やがれきは残り、時間が止まっています。復興のために皆で立ち上がらないといけないと思いました。

何もわからないので、全ては祈りからはじめ、何



をすべきかを考えて行動に移していきたいと思いました。

原町ベースのシスターや原町教会で出会った神父様やシスター方、また、ボランティア活動をしていらっしゃる方々の暖かさに触れて、癒されました。悲惨な状況の中でも、愛と安らぎと清らかさと希望が感じられました。皆さんの祈りの込められた土地でした。

これからは、被災者のために毎日心にかけて祈り、寄り添っていき、できることから行動に移していきたいと思っています。

飯田京子

原町ベースに到着すると、二人のシスター達が大変暖かく迎えてくれました。

南相馬市内の、今となっては在園生のいない幼稚園をボランティアのベースキャンプとして利用しています。ここでは地元の方々とコミュニケーションの場として大いに役立っています。

一見、全てが落ち着き平常通りに街が動いているようにみえますが、そこには放射能という問題が、あの雑草のように根を張っているのです。同じ福島でありながら広がる風評被害。震災直後の物理的な混乱とは違い、それこそじわじわと目に見えないレベルで広がる精神的なダメージが浮き彫りになってきました。

私の大きな関心事は、これらの多大な問題を受け入れ、活動されているシスター方とスタッフの皆

さんでした。複雑な人間関係と、日々の活動で無意識のストレスや疲れが溜まっておられるのではと思います。

私達は、ミネラルたっぷりの天然水と、心と体を癒すためのハーブティーを持ってお邪魔しました。ほんの束の間のひと時でしたが、笑いが絶えない楽しい時間でした。これからも継続してシスター達のお役に立てればと思っています。また新たな光の側面を見に行ってきます。

石倉麻貴

